



光る水景色を眺めつつ、
ふんわりした時間を過ごす。

店主の大家祐子さん(写真には不在)は、JRの松崎駅を降り立って歩き始め、目を奪われた。前方に広がる湖の水景色。あたりには趣ある商店街。ここだ!と直感した。まもなく東郷湖畔の草生い茂る地に「ぱにーに湯梨浜店」が生まれた。長崎出身の大家さんが鳥取に移り住んだのは、二十余年前。夫の故郷である。管理栄養士だったが、あるきつけからパンの店を鳥取市内で始めることになった。イタリア語の「ぱにー」と名づけたこの店は障害のある人となない人が共に仕事をしていく環境である。大学時代からころごしていた想いを形にしたのだ。懸命に働いているうちに軌道に乗り、輪が広がった。そして、湯梨浜へ。

「みんながとても気持ちよく仕事できて……」とスタッフのだけれども言う。「お客さまがのんびり過ごす時間を共有できるのがうれしいです。もちろんパンのおいしさはみんなの自慢です」

店主は、食のアイデアの人でもある。鳥取名産の梨を素材としたケーキ、その名も「天女の梨ターヘン」は平成二十六年「食のみやこ鳥取県」特産品コンクールで最優秀賞を受賞した。湖畔のパン屋「ぱにー」の特徴のひとつは、店内に足湯があることだ。東郷湖周囲には七つの足湯(七福神の湯)があり、ここは大黒天の湯。朝、湖面に陽がきらきらするのを眺めながら、焼きたてのパンと香り高いコーヒーを。いい時間がふんわり立ち昇る。

ぱにーに湯梨浜店
女性スタッフ



ゆ
う
ゆ
う、
ゆ
り
は
ま